



SINCE 1901 感謝と希望を
日本女子大学・創立100周年

図書館だより

目次

幕末の危機管理 「蕃書調所」の文書から	西村 圭子	1
図書館 ...本はそこで読む...	塚田 昌甫	2
絵本を読んで、こんなことを気にする男もいます	吉田 新一	
大学図書館での「出会いの1冊」	宮崎 礼子	3
図書館は知識の宝庫	高橋たまき	
つかってみようインターネット	鈴木 学	4
研究報告『社会系教科における中高一貫カリキュラムの編成』を刊して	小林 基男	6
仲間が自己を映す鏡	中澤 恵子	7
二期連続パブリック・サービス研究分科会に参加して		
退職にあたって	鈴木 真理	
平成10年度 夏期スクーリング閉館について	水嶋 寿恵	8



幕末の危機管理 - 「蕃書調所」の文書から -

西村 圭子

幕末の諸外国船来航に際して、幕府は江戸において直接交渉する事態に対応し、文化8年(1811)洋書翻訳と洋学研究の機関として「蛮書和解御用掛」を幕府天文方に置いた。この時期は、文化・文政の民衆文化の豊かな風潮もあり、シヨメールの家庭用百科辞典等の翻訳は、大槻玄沢はじめ一流の在府蘭学者を集める名分となった。幕府機構の中に蘭学者を動員して、外交政策決定の基礎としたことは、次の「蕃書調所」への組織化の前提となったのである。

嘉永6年(1853)、翌安政元年のペリー来航と日米和親条約の調印、さらに英・露・仏・蘭各国との条約調印を契機として、老中阿部正弘は自ら「幕府改革意見」を勘定所に諮問し、開明派の幕臣筒井政憲らを異国応接掛に任命して新組織創設の準備を行わせた。筒井は阿部に「調所」の運用について、諸外国の国力の強弱、水陸軍の状況研究のため、砲術・砲台建設、軍艦建造、航海測量、水陸練兵、地理・物産等の洋書翻訳を行ない、語学学習施設を付設し翻訳・通訳官養成を提言した。

1857年正月九段坂下に「蕃書調所」を開校、式出席の生徒は191名といわれる。教授は翻訳、句読教授は生徒の語学個別指導に当たった。洋書は幕府の紅葉山文庫からすべて移管され、また天文方の翻訳事業と文献がそのまま移された。「調所」の洋書は、安政期には600部となり、当時最大の洋書収集機関となった。1858年日米修好通商条約が調印され、蘭・露・英・仏も調印、神奈川、長崎、箱館を開港したことで、貿易にかかわる国内産業の育成、流通取引等の政策対応が必要となる。和蘭よりも英・米・仏・独との交渉が重要となり、次第に政治・軍事から殖産・工芸の研究が重視されて、1862年「洋書調所」と名称をかえ、さらに翌年「開成所」となった。「開成所」は幕府崩壊後、1869年いち早く開成学校、のち東京大学法・理・文学部として明治政府学術の中心となっている。

1867年大政奉還の翌年、幕府の洋書は駿府に移され、その後府中学問所・静岡学問所・静岡師範学校を経て、1925年静岡県立葵文庫となり、1970年静岡県立中央図書館開館と共に「葵文庫」として保存された。現葵文庫の洋書は831部2,325冊で、蘭書739冊、英書362冊、仏書1,135冊、独書63冊、その他26冊で、和書漢籍合わせて3,586冊である。1954年旧上野図書館倉庫で発見された「蕃書調所」の蘭書3,398冊は国立国会図書館に収められている。

「蕃書調所」の文書は諸外国との外交交渉に対応し、幕藩あげての海防に貢献、さらに鉱工業・電気・機械技術に至る産業の育成等、幕末の危機管理に重要な役割を果たしたのである。

(図書館長・史学科教授)

図書館 ...本はそこで読む...

塚田 昌甫

小学生の頃秋田市に疎開し戦後も5年程その地に留まっていた。子供の頃の思い出は妙に鮮明なものだが、その中で脳に強く焼き付いている部屋がある。家からぶらぶら歩いて20分程の所に、多分市営であろうが図書館があった。小じんまりとした木造建であったが、そこには小学生向けの部屋があってそこだけは正面からではなく道に面した脇の方から2・3段の石段を上って直接入れるようになっていた。女子大にも以前教養館にそのような教室があったが入口の感じが良く似ていた。そこは天井が高く、落ち付いた部屋のように子供ながらも感じた。私は時に思い出したようにそこへ通ったが、アルセーヌ・ルパンに最初に出会ったのもそこでであった。読み残しは借り出して家で読むこともあったが大抵はその場で読んだ。物語が面白かったことには違いないが、その部屋が読書そのものを楽しませてくれるなんとも言い難い雰囲気を持っていた。これが私には強烈な印象として残り、今でも図書館の三文字を見ると、その部屋の様子がまず頭に浮ぶ程である。

図書館といえばその蔵書数がその善し悪しの第一の要素のように言われ、図書の充実が図書館としての大きな務めであると思われた時代が長らく続いた。そしてそののちそこに行けば大抵の書物があるから大方の図書館は便利になった。次にはどこに行けば或はこの図書館に行けば見たい本があるか検索も容易になった。これらは皆利便性の追求の結果であった。しかし近未来そのことが、図書館としては、第一の意味を持たなくなるのではないかと私には思える。ではこれからの良い図書館とは何か。そこで読書がしたくなる図書館である。読書を楽しませてくれる図書館である。そこで読書したことが強い印象として残るところである...などと考えているのであるがどうであろうか。何年後かに新築されるであろう図書館はそういうところであってほしいと願うものである。

(図書委員長・数物科学科教授)

絵本を読んで、こんなことを気にする男もいます

吉田 新一

絵本の絵をゆっくり丹念に眺めているといろんな発見があって面白い。が、たまには気になることがある。その例をひとつ。おばあちゃんが孫たちに6ペンスの賞金を出して歌合戦を勧めている情景で始まるマザーグース絵本『6ペンスの唄をうたおう』では、おばあちゃんが子どもたちの前で指に6ペンス貨をはさんで見せている絵の、おばあちゃんの横の壁、正面中央に中年男性の肖像画の額が飾られている。明らかに今は亡きおばあちゃんの夫にちがいない。おばあちゃんは未亡人だと読める。同じ作家の別のマザーグース絵本『乳搾り娘』は、田舎の青年地主が乳搾り娘に求婚するが、持参金目当てとばれてしっぺ返しをくう喜劇だが、冒頭の絵が、乳搾り娘にのぼせている息子に、母親が「貧乏地主なんだから、持参金つきでなければ駄目」と説教しているシーン。父がなく後継ぎ息子を心配している寡婦の姿と読める。同一作家の『かえるくん、恋をさがしに』(これもマザーグース絵本)は、かえるが二十日ねずみのお嬢さんに恋を仕掛けに行く話で、冒頭は「かあさんがいいと言おうが言うまいが」息子のかえるは出掛けていくという場面の絵で、かえるのかあさんが息子をたしなめている図。ここでも部屋の壁に、亡き亭主らしきとのさまがえるの肖像画が掛けられている。どうしていつも<連れ合いに先立たれた夫人像>が描かれているのだろう。

つい先だって敬老の日のニュースで、65歳以上の高齢者人口の増加が報道されていたが、その数は男性に対して女性の方が断然多い。上の絵本は約100年前のイギリスの絵本作家ランドルフ・コールデコットの作品だが、男性として少々減入るのは、100年前も今も、後に残るのは女性と思われるようで、この<事実>は改善される見込みはないのか。これは高齢男性のひがみか。強きものよ、汝の名は女なり、と男として私はちょっと言ってみたくなる。

(児童学科教授)

大学図書館での「出会いの1冊」

宮崎 礼子

わたくしと大学図書館との「出会いの1冊」をあげるなら、丸岡秀子著『日本農村婦人問題』である。昭和20年代の終りで、日本女子大の児童研究所蔵書印が押されてあった。

新制大学発足の年に1年生になったわたくしは、1952(昭和27)年卒業、その年6月に農家生活研究所が設立され、農家生活の家政学領域での研究に所員として従事することとなった。

戦前日本の寄生地主的土地所有制は、農地改革により廃止され、重い小作料負担から解放された農家は、経済的余力が蓄積できるようになり、生産的投資にふりむけることを可能とし、生活の改善的意欲は高まった。この時期わたくしは農家家計研究をテーマとし、戦前に比して格段に高まった生活水準を、統計的に地域別・階層別に明らかにすることを手がけた。家計費はいうまでもなく、農業経営と農家生活の単位である農家の労働力再生産費であるから、農業生産力段階に照応するところに、かけだしのわたくしの関心はあった。

わたくしが手にした『日本農村婦人問題』は、1937(昭和12)年高陽書院(初版)である。(二版1948年八雲書院 三版1980年ドメス出版)この本は、「農家全体の7割を占める小作, 自小作, 働く婦人の6割を占める農耕婦人」「矮小家計と常時的赤字, それによる生活の逼迫, 婦人に対する因習的差別や家族制度の重圧, 彼等への一切の負担の転嫁, 社会的公共的施設の一般的貧しさ」にある農家婦人の地位を実証している。この本が34歳の著であることも含めて衝撃的であった。

本学名誉教授一番ヶ瀬康子先生が、戦争中の学生として図書館蔵書疎開作業をされた(させられた)時、この本を手にして得られた教示を丸岡秀子氏の「偲ぶ会」(1991年11月)で語られたのを会場で聞き、名著に接した自分の20歳代半ばの大学図書館を思い出したのであった。

(家政経済学科教授)

図書館は知識の宝庫

高橋 たまき

図書館は知識の宝庫であると思う。求める知識の性質と水準は人によって異なり、同じ人でも状況によって異なるであろうが、私どもは何らかの情報や考え方を希求して図書館を活用する。そして、図書館が備えている書物や各種の journal, そのほかの資料は、私どものそのときどきの知的要求を満たしてくれる。図書を検索する場所・書庫・閲覧室での利用者の真摯な姿からは、動機は何であれ、知識を求める人間の特性の一端が表出されているように感じ、身の引きしまる思いがする。また、本学の図書館では特定の journal に掲載されている論文のコピーを、他機関の図書館から取り寄せて頂けるのが、まことに有り難いことである。必要な情報を求めてその都度あちらこちらを奔走することを考えると、感謝の気持で一杯になる。

私は、10年程以前にアメリカのYale大学に一年間滞在したが、この大学の中央図書館には、同じ書物が複数備えられている例が多くみられた。たとえば、アメリカの心理学者や心理学を専攻する学生に好んでよまれる Werner, H. & Kaplan, B. の『シンボルの形成』は、ドイツ語の原著3冊と英訳本20冊以上が常時所蔵されていた。多くは借り出されていたが、書棚に残っていた2~3冊を手にとってみると、その汚れ具合から多くの人が熟読したことが推察された。同一書物の複数所蔵は、スペースの限界などを考慮すると、日本でそのまま実行することは困難かもしれないが、検討すべき点であろう。またYale大学には、中央図書館や古文書などの貴重資料のみを所蔵する独立した図書館以外に、各学部・学科が設置する図書室が50を超えて存在していた。これらの全てが、他学部・他学科の教員、学生、客員研究者たちにも解放されているのは印象的であった。〈知〉の源泉を独り占めにせず、多くの他者と共有しようとする open mindedness は、私ども日本人が学ぶべき態度ではないかと、当時痛感したものである。

(心理学科教授)

つかってみようインターネット

インターネットの世界には何があるのか・・・何もないかもしれない はじめに
インターネットの成立といった、歴史的な部分はすでに出版されている様々な文献を見ていただくとして、インターネットの世界はどういうものかというのを簡単に述べてみましょう。

まず、インターネットというのは通信手段の一つであり、そこから派生して情報流通の手段でもあります。だから「情報」がそこには存在しています。インターネットの世界では「情報」は「ホームページ」というレイアウトを施された表示の形をとまっています。それを「情報」を受け取る側がレイアウトされた「ホームページ」を再現する道具を用意して(ブラウザというアプリケーションソフト)手元のパソコン等に表示するのです。

さてその「情報」の中身はどんなものなのでしょう。まずインターネットで見られる「情報」が作成される動機は、本や雑誌と同じで「私はこんなことを考えているからみんなに知ってもらいたい・見てもらいたい」とか「このような情報があれば役に立つから」といったものです。本や雑誌の論文と異なるのはその手軽さです。出版社を通す必要もないし、査読の必要もありません。レイアウトのやり方さえわかっているならば(厳密に言えばHTML(Hyper Text Markup Language)という文法があり、できあがった「ホームページ」を業者などのサーバに登録して、という手順を踏むのですが)「情報」を世間に向けて出すことができるのです。誰でも「情報」を世間に公開することができることとなります。ただ実際には、そのような背景から誰がどんな「ホームページ」を出すのか、また出しているのかは十分に把握できません。ですのであらゆる「情報」がある可能性があります。

しかし、見出しにある「何もないかもしれない」に絡むところとなりますが、「みんなに知らせたい情報」がなければ当然その「ホームページ」は存在しません。それに「こんな情報が載っているホームページがあると役に立つ」と思っている、その「ホームページ」が存在しているとは限りません。

ざっとですが、以上のようなことを頭の隅に入れて、実際のインターネットの世界に入っていくことにしましょう。

使ってみようインターネット 身近なところで図書館のホームページとか

ホームページを見るためには、パソコンの用意や、インターネットへの接続といった環境を整えなければなりません。これから話では既にそういった準備が済んでいる先の事として話をします。

この図書館だよりを読んでいる皆さんの身近にあるホームページの例として、図書館のホームページを取り上げてみましょう。

画面の上では、カーソルがマウスに合わせて動くのがわかるでしょう。そしてホームページ上で、カーソルが[矢印]のときと[指をさす形]に変化する場所があります。インターネットでの基本的な決まり事なのですが、指をさすところには「何かしらの情報がありそこへ導いてあげるよ」という意味があります(「リンク」とよびます)。

例であげた図書館のホームページの最初の画面は、本や雑誌で言えば最初の目次にあたり、その目次を見てページをめくることになる、ということと同じなのです。図で示してみると、次のようになります。



図：図書館のホームページ

では、実際にページをめくってみましょう。

目次	図書だと	ホームページだと
利用案内	5p	
開館日程	10p	
資料検索	15p	
Online Journal	20p	
学外サーバ	25p	
日本女子大学	30p	

・利用案内

このページには図書館全体のお知らせや、目白・西生田両図書館のフロア構成やお知らせが載っています。

利用案内
総合利用案内



目白図書館

[お知らせ](#)
[フロアガイド](#)
[1F 2F 3F 4F](#)



西生田図書館

[お知らせ](#)
[フロアガイド](#)
[1F 2F 3F 4F](#)

開館日程



9月
10月
11月



9月
10月
11月

・開館日程

このページには、見出しの通り開館日・閉館日の情報が載っています。

・資料検索

このページでは、蔵書の検索ができます(1998.10.1現在では、蔵書のすべてではありません。また、図書館の蔵書だけでもありません) 図に用いたのは、開いたときの最初の画面です。

蔵書検索

西生田の全資料と、目白の洋雑誌は検索できます。
目白の和・洋図書、和雑誌は一部未入力です。

検索語を指定してから、[検索開始]ボタンをクリックして下さい。

利用の手引きは[こちら](#)です

検索対象 全資料 図書 雑誌

検索語

さらに検索の手がかりがあれば、掛け合わせもできます。
 AND OR

Online Journal

PDF形式のファイルを読むには [Adobe Acrobat Reader](#) が必要です。

オンラインで利用できる雑誌リスト

現在、電子を登録購入中で、オンラインでの閲覧も可能ということが確認できたものです。
学内者のみに限定させていただきます。
User Name、Password 番号が必要なものは、図書館カウンターもしくは遠大刊行物係にお問い合わせください。
但し、図書館中のものはしばらくお待ちください。

- 雑誌巻目(目次・巻頭またはアブストラクトのみ)
- 1. [科学](#)
- 2. [世界](#)
- The Royal Society of Chemistry. [User nameとPasswordが必要です。]
- 1. [Chemical Communications](#)
- 2. [Chemical Society Reviews](#)
- 3. [Journal of the Chemical Society, Dalton Transactions](#)
- 4. [Faraday Discussions](#)
- 5. [Journal of the Chemical Society, Faraday Transactions](#)
- 6. [Journal of Chemical Research](#)
- 7. [Journal of Materials Chemistry](#)
- 8. [Journal of the Chemical Society, Perkin Transactions 1](#)
- 9. [Journal of the Chemical Society, Perkin Transactions 2](#)
- Times [Customer ref. no.とExpiry dateが必要です。]
- 1. [TIS: The Times Literary Supplement](#)
- 2. [The Times Higher Education Supplement](#)

・Online Journal

インターネットで購読できる雑誌です。最近増えている雑誌の形態です。物流の影響を受けずに済むという利点があります(もちろんそれだけではありませんが)、図は一部分です。

・学外サーバ

日本女子大学図書館以外のホームページへ導いてくれます。ほかの図書館のホームページや、図書館に関連する内容のホームページを見に行くことができます。

・日本女子大学

学校法人日本女子大学のホームページを見に行くことができます。

文中に用いた図は、1998年10月1日現在のものです。

(館員・閲覧係 鈴木学)

研究報告『社会系教科における中高一貫カリキュラムの編成』を刊して

小林基男

3年前の95年6月、発足したばかりの総合研究所が研究課題を公募した時、私はほんの軽い気持ちで、緒につきはじめていた社会科カリキュラムの一本化の問題で応募してみないかと、中・高の仲間の先生方に持ちかけたのだった。年間研究費は十二分というわけではなかったし、利用には文部省の科学研究費よりもはるかに厳しい制約がついていたけれども、かなりの程度教育機器を充実させることができそうなこと、何よりも校務に追いまくられがちな若い先生方に研究と発表の場を確保することができることなどが、魅力的に思えたからだった。中学校の小峰先生との相談もすぐにまとまったし、社会科全員での相談も短時間でまとまり、研究計画や予算案、大学の先生方への協力要請などの分業体制も、すぐにスタートしたことを今でもおぼえている。その点では92年春からの下地があったことが大きかった。それは高等学校のカリキュラム改訂にともない、選択科目の大幅導入が意識され、単位数の多い教科に必修科目の単位減が要請されたため、社会科では中・高間で学習内容の重複を抑制するための科目毎の話し合いをスタートさせていたことである。もう一方では、社会科に關係する諸学科の先生方が、好意的に協力して下さったことも大きかった。我々が依頼した全員の先生方が快く共同研究にご参加下さり、中でも教育学科の佐島群巳先生は研究代表までお引き受け下さった。こうした事情から、我々は先行きの困難など考えもせず、総合研究所から課題研究として採用したという通知を受けた時には、皆で大喜びしたのだった。

しかしそれからが苦難の道だった。中・高の教員は授業の他に様々な校務を担当している。そのため一人一人は非常に多忙である。お互いにそのことは熟知しているつもりだった。それでも午後6時ごろからならば、いつでも集まれるだろうと高を括っていた。全員が集まれる日はいつかとやり繰りをしてみると、何かの都合で誰かが欠ける。土・日はどうかと調べると担当のクラブの試合の引率やらとこれも儘ならない。休暇期間もしかりである。こうしてメンバーを分散した分科会方式に切り換え、数人のメンバーでの地均しを先行させたりと種々の方式を活用して、ようやく共同研究の進行は具体化したのであった。熱意はあってもなかなか先へ進めない悪戦苦闘が繰り返された。その上、中学校のまとめ役で、私にとっても頼り甲斐のある尊敬すべき仲間だった小峰先生が、2ヶ年経った昨年3月健康上の理由で退職のやむなきに到ったのは大きな痛手だった。しかし、彼の退職を乗り越えて仲間の先生方は頑張ってくれた。昨年秋には報告書をまとめようと話しも決まった。課題研究である以上報告書の提出は最低限の義務だろう。我々は全員そう考えた。佐島先生のお知恵も借りて、全体の構成を考え、全員の執筆分担も定めた。それからが大変だった。共同研究、とりわけ共同執筆は全員の合意形成が当然の前提である。分担執筆した原稿を持ちより、全員で検討して内容、文体、その他様々な修正を施さねばならない。それも全員出席の場で。長い原稿審議が続いた。時間と日の設定に腐心する日々であった。学年末の年間で最も多忙な日々である。何としても報告書をまとめなければと、皆で歯を食いしばった結果がこの報告書につながったと今でも思う。一人一人に確かめたわけではないが、おそらく皆同感であろう。最終稿が完成したのは5月の連休直前だった。

刷りあがった冊子を手にとると、種々いたらない部分が目につき、内心忸怩たる思いにかられる。しかし未熟なものであっても、ともかくも報告書を形にできたのは各方面の温かな協力と激励によるところが大きい。学内関係は勿論のこと、聞き取り調査やアンケートにご協力いただいた大学附属校を中心とする私立各校の社会科の先生方や、社会科教育に携わる研究者各位の励ましは本当に有難かった。そして何よりも多忙な校務の中を遣り繰りしながら、最後まで音を上げなかった中・高社会科スタッフのチームワークの良さが大きかった。この社会科のチームワークを何よりの誇りとしながら、第二期の研究計画を進めていきたいと考えている。

このような機会を与えてくれた総合研究所理事の先生方に、とりわけ所長の新井明先生に、この場を借りて改めて厚く御礼申しあげたい。
(附属高等学校教諭)

仲間は自己を映す鏡 二期連続パブリック・サービス研究分科会に参加して

中 澤 恵 子

「勉強になるので参加してみませんか？お友達もできるかもしれませんよ。」

2年前、すべては課長のこの一言から始まった。課長が私に参加をお勧めになったのは、私立大学図書館協会東地区部に属する研究分科会（会期は2年間）の一つ、パブリック・サービス研究分科会であった。利用者サービス担当の若手図書館員育成を目的としている分科会である。業務との兼合いもあるので、分科会OGでもある先輩方に相談をし、「今やれる事は今やろう」と決心した。かくて、私は日本女子大学という看板を背負い（先輩の言葉）、パブリック・サービス研究分科会に参加することになった。会員10名、オブザーバー1名、うち8名が勤務年数5年以内という若さで構成された会は、良い意味で刺激があった。同じ位の経験年数しかもたない仲間の話を聞いて感心し、未熟な自分を恥じる事もあれば、自館とは異なった他館の考え方に新鮮な驚きを感じる事もあった。また、仲間と討論する中で、如何に先輩方が重要な知識を与えて下さっていたか改めて実感し、感謝する事も少なくはなかった。この期の仲間とは、今でもつきあいが続いている。

そして、私は今期もパブリック・サービス研究分科会に参加している。会員12名、うち9名がまたも勤務年数5年以内である。前期はピヨピヨで参加した私だが、今期は単に肥大化したブヨブヨになっていたのでは意味がないという不安も最初はあった。しかし今、前期では得られようがなかった感慨が私の胸を一杯にしている。今はまだ業務を覚えるのに一所懸命という新人の仲間を見ると、2年前の自分と重なる。とても懐しく愛しい。自分自身で立ち、決断していく現状に不満などない。ただ、あの時があってこそ私の私なのだ。パブリック・サービス研究分科会に参加して学んだ事、それは仲間という鏡に映し出される過去・現在・未来の自分を見つめ直すという事である。

（館員・西生田図書館）

退職にあたって

鈴 木 真 理

5年間半勤めた女子大とも、この秋でお別れすることになりました。就職して最初の4年間は入試に関わる業務を担当し、最後の1年間は幸運にも大好きな図書館で仕事をする機会が得られました。初めて社会人となり、泣いたり笑ったりたくさん失敗もしましたが、今振り返るとその一つ一つの出来事から本当に様々なことを教えられました。

入試の仕事をしていた時は、大学広報のため北は北海道から南は九州まで進学相談会へ出張に行きました。青森で東北弁の高校生にとまどったこと、台風で水戸のホテルに缶詰になったこと、高校訪問の途中で道に迷ったこと、土地の人の優しさに触れ、美味しい名物を味わったことなど思い出は心の中にたくさん積もっています。

図書館に異動してからは、日々新しい本と学生とに出会うこと、生字引の如き先輩から学ぶことの楽しさのうちに、またたく間に1年が経ってしまいました。学生時代、とても居心地良かった図書館に今度は私が応えようと思っていたのですが、急な事情で退職せざるを得なくなりました。

高校時代から憧れていた司書の仕事から離れることはとても残念ですが、再び本の側で仕事をする機会が得られるまで、いつも本を傍らに、心に図書館を持っていられたらいいなと思います。

学生の皆さんも、どうぞ在学中に本からたくさんの知識を吸収し、うんと魅力を身につけて卒業してください。

最後になりますが、心豊かでとても温かかった図書館の先輩方、お世話になった多くの方々、そして四季折々に心を励ましてくれたキャンパスの美しい自然に心から感謝の気持ちをこめて。

ありがとうございました。さようなら。

（館員・閲覧係）

平成10年度 夏期スクーリング開館について

水 嶋 寿 恵

梅雨明けがいつだったか思い出すのが難しいほど、この夏は夏らしい太陽も見ぬうちに過ぎてしまった。曇り空は続き、例年より遅れて発生した台風は次々と上陸、各地に洪水や風による被害を残していった。それでもやはり夏は夏、海に花火に、それからスクーリング。図書館ではスクーリングは夏の最も重要な風物詩である。限られた時間の中で、スクーリング生の方々に少しでも有効に利用していただくために、毎年、前向きに取り組んでいる。

一昨年の夏に、カウンター前の目録コーナーが奥へと移され、OPACコーナーがそこへ設置された。それから徐々にパソコンの台数も増え、端末に向かって利用する利用者も途切れることなく、今ではすっかり定着してしまっているように見える。しかし、使い方がわからず戸惑うことがあったら、遠慮せず館員へお尋ねいただきたい。

今年の受講者は昨年より400名程減少している。これを受けて、図書館の登録者も200名程少なかった。よって、利用に関する統計も全般にわたって前年の数を下回っている。いつもスクーリ

夏期スクーリング開館の利用状況

年度	10	9	8
開館日数	30	30	30
入館者数	15,441	17,674	18,863
1日平均	515	590	629
最高	646	753	792
最低	364	429	438
受講者数	3,014	3,411	3,674
登録者数	1,062	1,223	1,268
1日平均	36	41	43
貸出冊数	5,199	6,386	6,478
1人当たり	5	5	5
1日平均	173	213	216
最高	268	322	365
最低	98	121	103
貸出日数	30	30	30
複写枚数(2F)	64,553	73,208	68,353
1日平均(2F)	2,152	2,441	2,279
複写枚数(1F)	15,125	17,829	13,704
1日平均(1F)	515	594	457
一般学生・教職員 その他の貸出	1,992	2,494	2,301
1日平均	66	83	77

ング開館が始まると、カウンターの前に登録の手続きを待つ利用者の長い列ができるが、今年はそれもなく、終始落ち着いた状態であった。

今までスクーリング生は、目白・西生田間の本の取り寄せはできず、貸出も登録した方の図書館でしかできなかったが、今年からスクーリング期間中も、取り寄せを含め、両館利用できるようになった。スクーリング生による目白への取り寄せ利用は図書8件で、雑誌の利用はなかった。

いつも担当者を悩ませる切取り本も2件に止まり、期間中の延滞督促も今年は昨年より3割程減った。9月25日にスクーリング貸出の最終期限を迎えたが、もし、返却されずに忘れ去られてご自宅で晩秋を迎えている本があったら、至急お返し下さい。

(館員・閲覧係)

参考係利用状況(質問処理件数)

年度(日数)	10(15)	9(22)	8(22)
一般学生・教職員	67	167	87
スクーリング生・その他	49	64	61
合計	116	231	148
1日平均	7.7	10.5	6.7

編集後記 平成10年度図書委員長をお務めの塚田先生そして今年度定年退職される3先生方に、エッセイを寄せていただきました。前号の「目で見るホームページ」に続いて「使ってみようインターネット」。総合研究所研究課題『社会系教科における中高一貫カリキュラム編成』(研究代表佐島群巳先生)が刊行され、附属高等学校小林先生に執筆をお願いしました。この度11月に創刊された「日本女子大学総合研究所紀要 第1号」にも掲載されています。図書館での新人安河内さんは、御結婚され鈴木さんになられました。新居は札幌で、猫ちゃんとは離れて新生活を歩まれます。巻頭のカットは、前号に引き続き理学部長国府田先生作です。(田口)